

教育目標

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
身近な環境とかかわり、生き生きと遊ぶ子供を育てる	豊かな学びが生まれる保育の実現	様々な感情体験が生まれる 自然環境の工夫	・園庭にはブルーベリーや金柑、レモンといった実のなる木があるが、今年保護者の協力があり、プラムとミニりんごを植樹した。四季折々に触れたり、香りを感じたり、食べたりしながら豊かな体験に繋がっている。
		言葉の豊かさにつながる 環境の工夫	・子供たちが遊びに夢中になれる時間の確保や空間作りをしてきたことで、感動や発見、驚きなどの感情を自分なりの言葉で表現する子供の姿が増えてきている。
		様々な発想が生まれる 環境の工夫	・玄関前にも制作スペースを作り、紙やテープ、ペン、はさみなどを用意をしたり、幼稚園・小学校内の自然物を取り入れたりしながら、子供の思いが満たされる環境作りに取り組んでいる。
	豊かなかかわりが生まれる保育の実現	異年齢のかかわりの充実	・複式学級であることをいかしながら、園庭で遊ぶときだけでなく、各保育室も開放してそれぞれの遊び場を共有できるように取り組んでいる。
		幼小交流の充実	・運動会では共に競技に参加したり、栗拾いに出かけたり、授業で学んだ発表を見せてもらったり、年間をとおして互いに学び多い交流を積み重ねている。
		地域の人々とのかかわり	・番所庭園へのお散歩や吊るし柿作り、栗拾い、昔遊び、消防団見学など地域の方々のご協力をいただきながら、取り組むことができた。その中で、子供たちとかかわりを深めるとともに、幼稚園教育について知っていただく機会になっている。
	すこやかな生活につながる保育の実現	自尊心を育む	・一人一人を大切に、細やかに遊びの様子や育ちを見取って職員間で共有し子供理解を深めることで、子供自身が自分は大切な存在なのだと感じることができるよう努めている。
		保護者との連携	・コロナ対策をしながら、保育参観の回数を昨年より増やして、子供の成長の様子を共有してきた。 ・個人懇談では写真を共に見ながら、子供の遊びの様子や友達とかかわり、成長の過程などについて伝えることで、理解しやすいように工夫をしている。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

園の特色である幼小連携や学びの接続、地域との交流は、コロナ禍においても小学校や地域の方々との協力を得て行ってきたので、評価をしていただくことができた。地域交流の中で、地域の特産を使用したクッキングの再会を願う声があり、コロナ対策を講じながら再開に向けて十分に計画をしていくことが課題である。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

- ・小学校と合同の現職教育の中で、互いの保育・授業を見学し協議会を行い、それぞれの視点から意見を出し合っただけでなく、踏み込んだ話し合いをすることができた。
- ・今年度は、コロナ対策をしながらも保護者や地域の方々との協力を得ながら、保育参観の回数を増やしたり、地域への園外保育や地域の方々との交流を増加させることができた。園の教育や子供たちの様子をより具体的に伝えていくことが今後の課題である。
- ・園児数を増加させることが大きな課題である。本園の場所や取り組みをもっと知ってもらうためにも、ホームページの充実に取り組んでいきたい。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- ・雑賀崎は特に様々な独特な環境があって良い。幼小の交流は、大人が教えること以上に小学生から教えてもらうことでより心に残ると感じた。
- ・雑賀崎の1年生がしっかりとしているのは、幼小連携のおかげだと思う。また、地域の方々との協力がすばらしく、保育に活かされていると感じる。
- ・読書の好きな子供になるような習慣を身につけてほしい。
- ・園児数を増やすことは難しい課題だが案を考えてほしい。